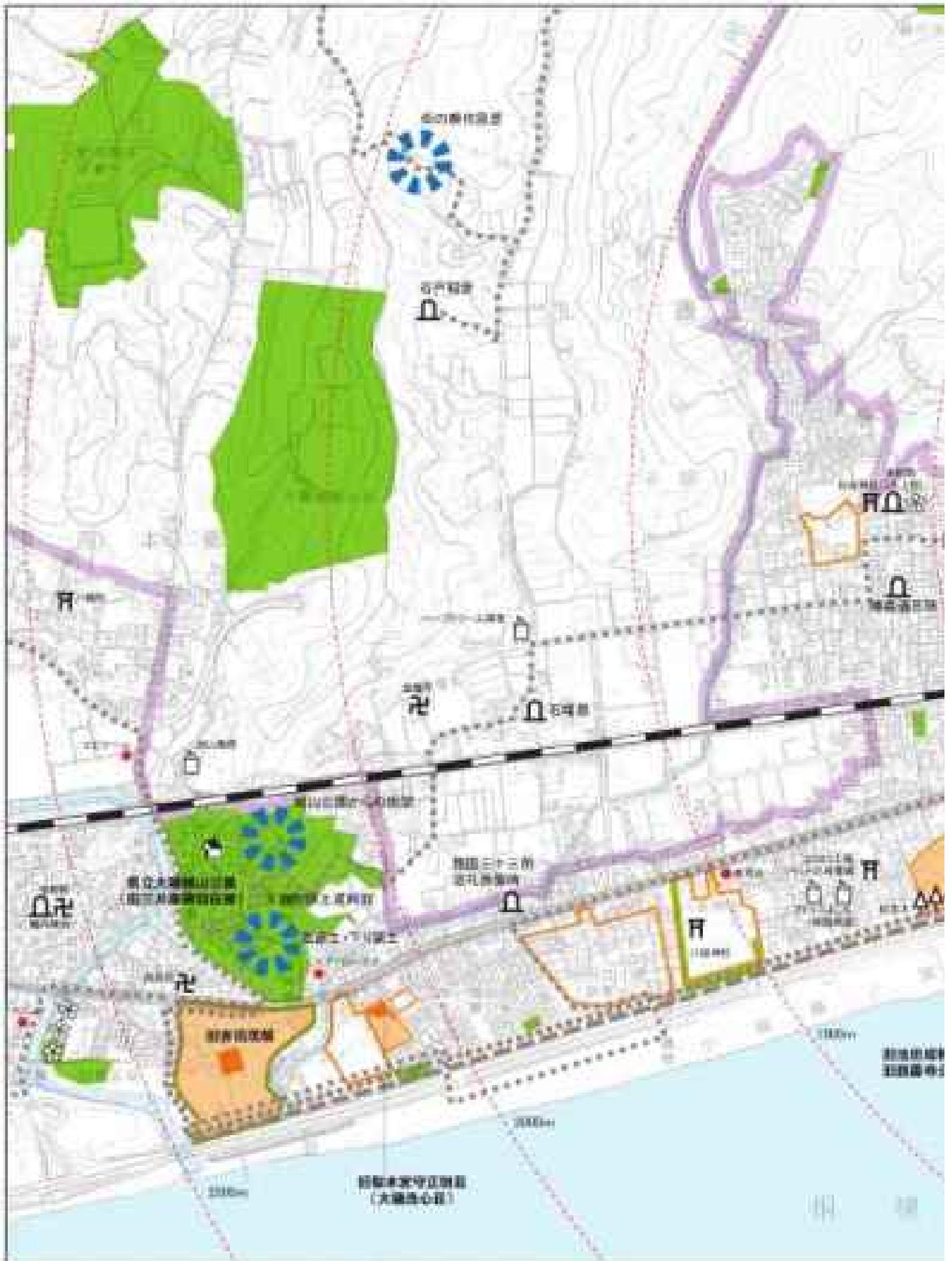




1-2-6. 地域資源（邸園文化交流園ゾーン）



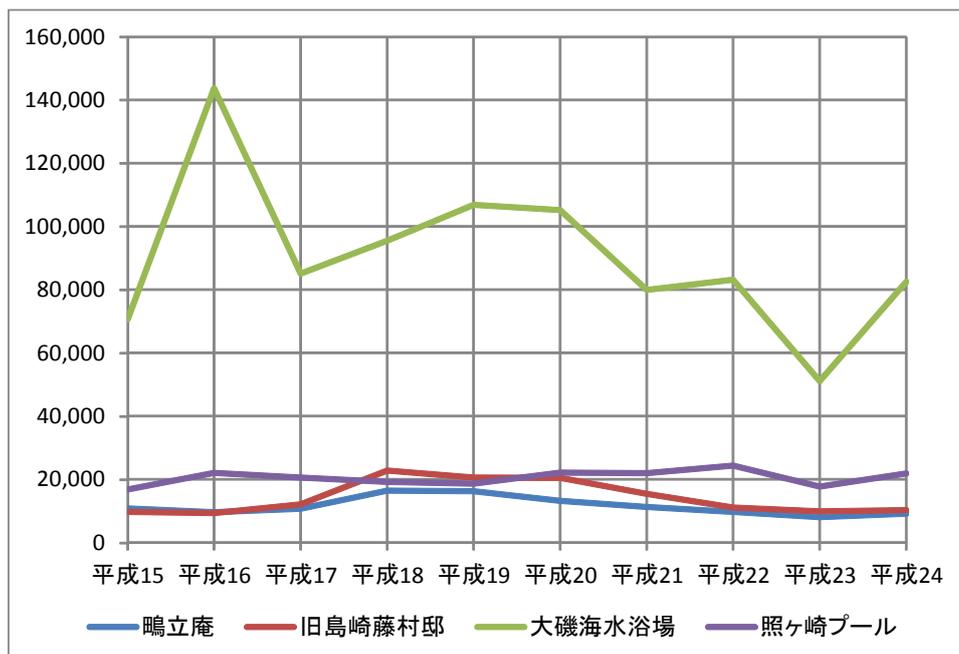


1-2-7. 観光動態

(1) 大磯町行事一覧

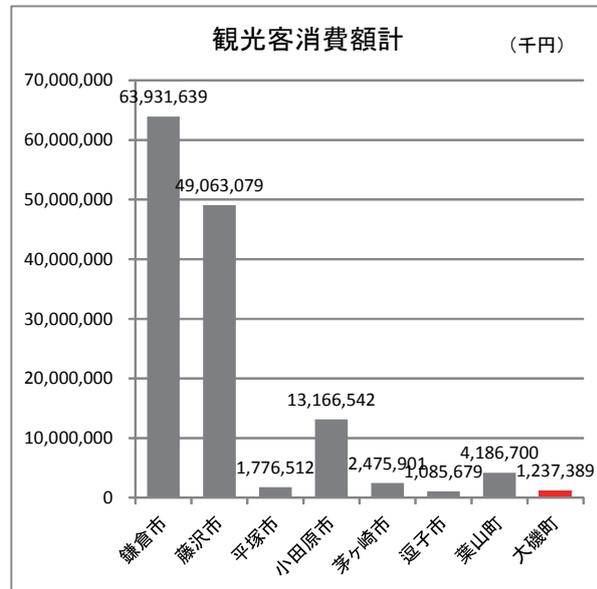
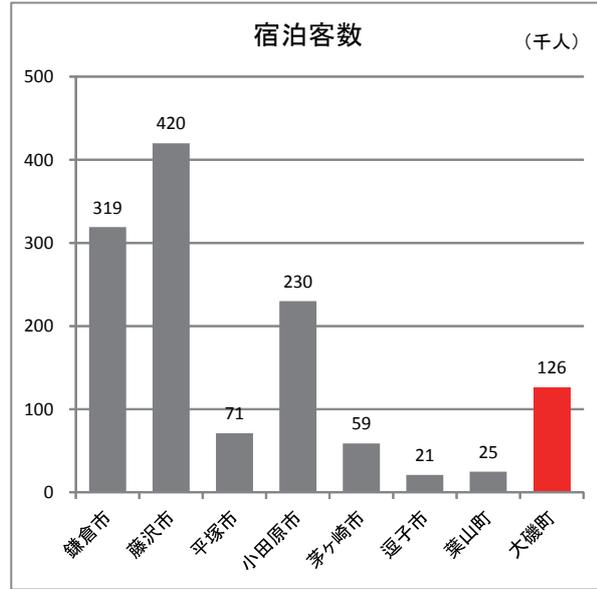
No.	名称	場所	時期	備考
1	左義長	北浜海岸	1月	国 / 無形民俗文化財
2	大磯寒中神輿	大磯海水浴場	1月	焚き火
3	高来神社の節分祭	高来神社	2月	
4	大磯西行祭	嶋立庵	3月	
5	白岩神社流鏝馬(歩射)	白岩神社	3月	
6	オープンガーデンフェスタ	東小磯山手地区	4月～5月	イギリスをモデルに
7	高麗の山神輿	高来神社～高麗山	4月	町 / 無形民俗文化財
8	国府祭(こうのまち)	神揃山～馬場公園～六所神社	5月	県 / 無形民俗文化財
9	虎御石祭	延台寺	5月	曾我兄弟ゆかり
10	白キス投げ釣り大会	こゆるぎ海岸の5kmの範囲	6月	
11	海開き	大磯海水浴場	7月	松本順謝恩碑へ黙祷
12	中丸のお天王さん	八坂神社	7月	
13	高来神社大祭(御船祭)	高来神社～照ヶ崎	7月 / 偶数年 に御船が出る	
14	なぎさの祭典	大磯港県営駐車場	7月末	花火大会
15	七夕	西小磯	8月	国 / 選択無形文化財
16	島崎藤村忌	地福寺	8月	
17	OISO チャレンジフェスティバル	大磯運動公園	10月	町民体育祭
18	おおいそ文化祭	地区会館他	10月～11月	
19	宿場まつり	山王町旧東海道松並木	11月	
20	大磯市	大磯港	毎月第三日曜	
21	邸園文化祭	旧安田善次郎邸、県立大磯城山公園 他 横須賀市、葉山市、逗子市、鎌倉市、 藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、大磯町、 二宮町、小田原市	5月～12月	

大磯町観光施設利用状況



出典：平成24年度大磯町観光施設利用状況

(2) 観光実態 (平成 24 年)



(参考) 観光客消費額計／延観光客数 (円/人)



※入込観光客数を見る上で、上記延観光客数は観光客の立ち寄り地点数を考慮していない点に注意が必要。平均立ち寄り地点数の多い地域が延観光客数は多くなる。2013年9月、鎌倉市観光商工課はアンケートにより、観光客の平均立ち寄り地点数を調査し（平均2.55カ所立ち寄り）、延観光客数を割って実人数を算出した所、平成12年度は延約1,974万人だったものが、実人数で約774万人であったことを発表した。

出典：平成24年神奈川県入込観光客調査より

1-2-8. 大磯の市民まちづくり活動団体

- ・大磯まちづくり会議
- ・NPO法人大磯だいすき倶楽部
- ・特定非営利活動法人西湘をあそぶ会
- ・大磯逸品の会
- ・大磯ガーデニング倶楽部
- ・特定非営利活動法人大磯ガイドボランティア協会
- ・公益社団法人大磯町観光協会
- ・大磯町商工会
- ・大磯地域振興株式会社

2章 大磯町における景観・観光資源の再生・利活用計画の概要

2 - 1. 大磯町新たな観光の核づくり基本計画概要

(1) 趣旨

平成25年2月18日に神奈川県認定を受けた新たな観光の核づくり構想である。「三つの舞台を中心にニューツーリズムによる日本一の保養地再生」を計画的に推進するために策定する。

(2) 計画期間

- ア 平成25年(2013)年度から平成29(2017)年度の5年間の計画とする。
- イ 必要に応じて、計画期間内であっても、随時見直しを行う。

(3) 計画の基本方針

本計画は、大磯町第四次総合計画中期基本計画の重点プロジェクトである「地域資源を活かした観光推進プロジェクト」を実現する計画である。

方針

1. 町民参加のもと町民等との協働による保養地づくり
2. 四季を通じ質の高い魅力あふれる保養地づくり
3. 民間資本の活用・連携による保養地づくり
4. 観光拠点の形成とネットワーク化による保養地づくり

(4) 事業

① 3つの舞台の目標

大磯町の区域を次の三つに分け、それぞれの舞台名と目標を次の通り定めている。

舞台名	目標
文藝五輪	「グリーンパーク」ニューツーリズムと保養地再生による観光保養地づくり
公園文化堂楽園	「公園文化+地域は街オープンガーデン」による地域産業型観光保養無障の創出
こゆるぎの園	「ブルーパーク」ニューツーリズムと保養地再生による観光保養地づくり、奥平ライオン市との連携



神奈川県「新たな観光の核づくり認定事業」に応募し、認定を受けた。

② 3つの舞台の現況と課題

三つの舞台の現況と課題を次の通り整理している。

舞台名	現況	課題
大磯丘陵	<ul style="list-style-type: none"> 山林や農地などの自然的土地利用が大半を占める。 大磯の緑の骨格を形成している。 市街化調整区域である。 農業就業者の減少・高齢化により荒廃農地が増えている。 イノシシ等の有害鳥獣が増えている。 西部地区ではみかん狩りが行われている。 大磯運動公園や星槎湘南大磯キャンパスの施設がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業の活性化（6次産業化や耕作放棄地の解消を含む） 緑地の保全と活用 有害鳥獣対策 良好な景観の形成 丘陵を巡るハイキングコースなどのまち歩きコースの充実 ニューツーリズムの創出 トイレや休憩所等の充実 宿泊施設の充実
邸園文化交流園	<ul style="list-style-type: none"> 市街地であり、住宅地等の都市的土地利用が大半を占める。 商店数が減っている。 旧別荘地がマンションや戸建て住宅地へと変わってきている。 旧東海道松並木の松や市街地の緑が減ってきている。 休日等の午後は国道1号や西湘バイパスの上りが渋滞する。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的建造物の保全と活用（食文化国際交流館等） 旧吉田茂邸の再建 市街地の緑の保全 良好な景観の形成 まち歩きコースの充実 ニューツーリズムの創出 トイレや休憩所等の充実 宿泊施設の充実
こゆるぎの浜	<ul style="list-style-type: none"> 海岸を除き市街化区域である。 漁業就業者の減少と高齢化が進んでいる。 動力漁船隻数は21隻である（平成20年漁業センサス）。 大磯港を除き自然海岸である。 北浜海岸では夏季に海水浴場が設置される。 海岸の利用はサーファーや釣りが主である。 地引網が行われている。 照ヶ崎海岸以西では砂浜が浸食をされている。 西部地区には大規模な宿泊施設がある。 海岸線の松林が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業の活性化（6次産業化を含む） 松林の保全 大磯港賑わい交流施設の整備 良好な景観の形成 照ヶ崎海岸以西の海岸へのアクセス 太平洋岸自転車道の整備 まち歩きコースの充実 ニューツーリズムの創出 トイレや休憩所等の充実 宿泊施設の充実

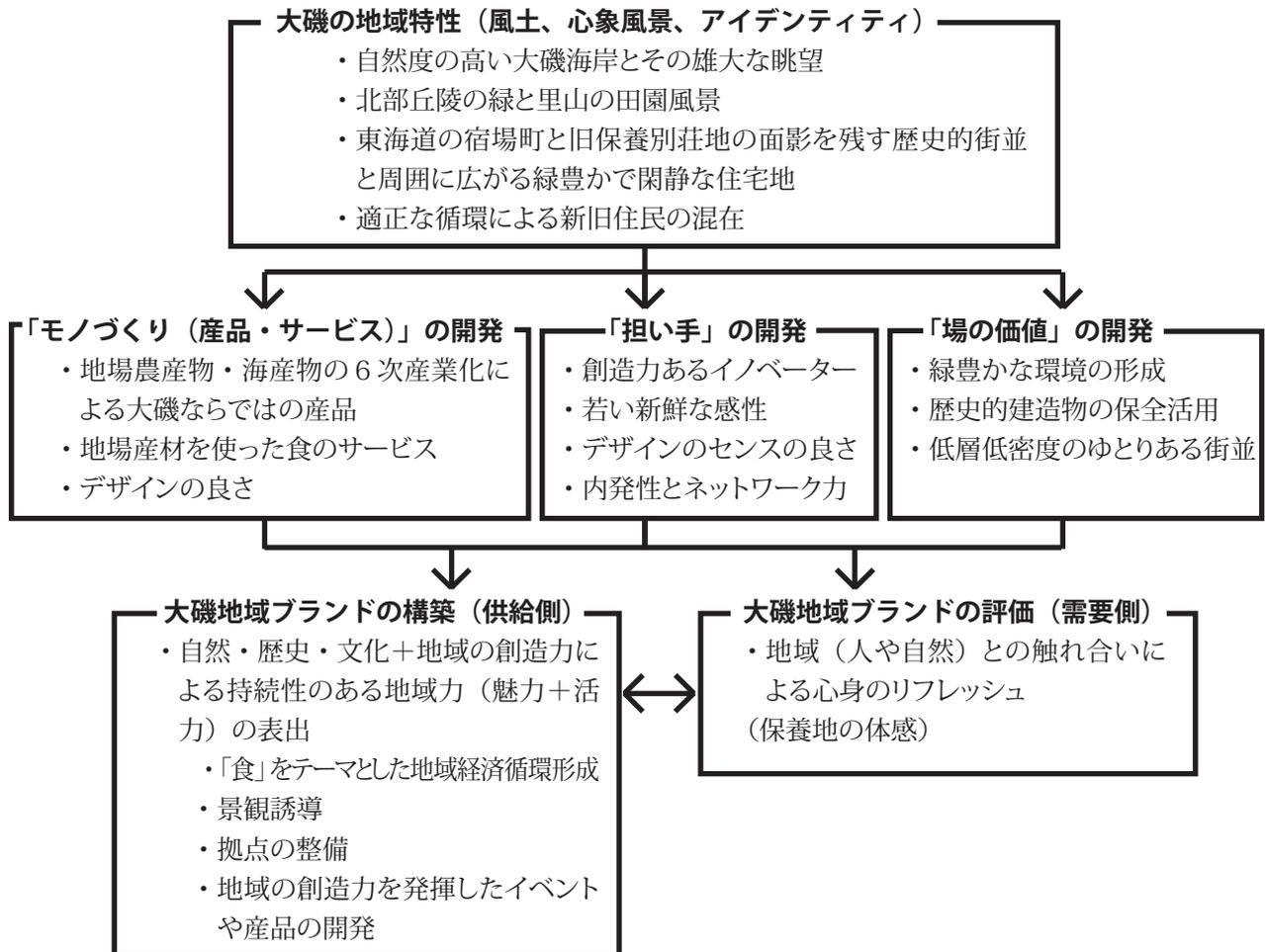
③目標を達成するために行う事業

カテゴリー	概要及び事業費	事業主体	計画期間（年度）
旧別荘地保全活用の検討と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○旧別荘地に（仮称）食文化国際交流館を開設し、地産地消による食文化の普及と国際交流を推進する。また旧別荘地の庭園やオープンガーデンの進展等により、花があふれる大磯町を創出する。 ○旧吉田茂邸を再建し、体験・学習・交流する施設として活用する。 ○海岸沿いの旧別荘地周辺を対象に都市計画制度の地域地区（風致地区、特別緑地保全地区、特別用途地区）の重複指定を図る。 ○その他施策 未公開邸園の公開／観光環境等の整備／別荘に関する展示／鳴立川の清流の回復と親水機能化／緑化の推進 ○事業費：約10億（旧吉田邸再建約6億）（食文化国際交流館約4億） 	推進協議会の構成団体など	H25 26 27 28～ (仮称)食文化国際交流館の検討・開設準備 (仮称)食文化国際交流館の開設 旧吉田邸実施設計 旧吉田邸の再建工事と開館 活用
ニューツーリズムの検討と創出	<ul style="list-style-type: none"> ○グリーンパーク、ブルーパークを舞台に、地域資源を活用した体験型プログラムを創出する。 ○その他施策 観光環境等の整備／まち歩きコースの充実／大磯市とマチナカとの連携／通い型の田舎暮らしの仕掛けづくり／未利用の農水産物資源の活用／港を出入り口にした「相模湾沿岸の新たな観光」商品の開発／宿泊施設の検討／西部エリアスポーツタウン化事業の検討／北浜海岸散策路周辺等の整備 	推進協議会の構成団体など	H25 26 27 28～ ニューツーリズムの検討 ニューツーリズムの創出
(仮)大磯ブランド戦略の策定と大磯ブランドの認定	<ul style="list-style-type: none"> ○国内外から選ばれ続けるためのコンセプトを含めた（仮）大磯ブランド戦略を策定する。 ○大磯ブランドの価値を高める、特産物、文化、自然や景観などの個別ブランドの形成（認定）を図る。 ○その他施策 観光立町推進のアイデアの募集／「おもてなしの心」の醸成 	推進協議会の構成団体など	H25 26 27 28～ ブランド戦略の策定 大磯ブランドの認定
大磯港賑わい交流施設の検討と実施	<ul style="list-style-type: none"> ○港湾管理事務所や漁業協同組合事務所の建替えにあわせて多目的スペース、飲食店、物販店、休憩施設や情報提供施設等の整備を図る。 ○その他施策 バーベキュー場、ウェルネス、スポーツの滞在リゾート型機能の付加の検討／海水浴場周辺の海浜との連携／港の施設を利用したソフト事業の充実／骨材置場の改善 	未定	H25 26 27 28～ 賑わい交流施設の検討 施設整備
産業連携による新事業検討と創出	<ul style="list-style-type: none"> ○農業や漁業の6次産業化による新たな事業の検討と創出を図る。 ○ニューツーリズムと産業との連携による新たな事業の検討と創出を図る。 	推進協議会の構成団体など	H25 26 27 28～ 新規事業の検討 新規事業の創出

2-2. 大磯町における景観・観光資源の再生・利活用検討調査方針の整理

基本的考え方 「人や自然との触れ合いによる心身のリフレッシュ」

大磯の景観・観光資源再生・利活用計画（景観・観光まちづくり）の構図

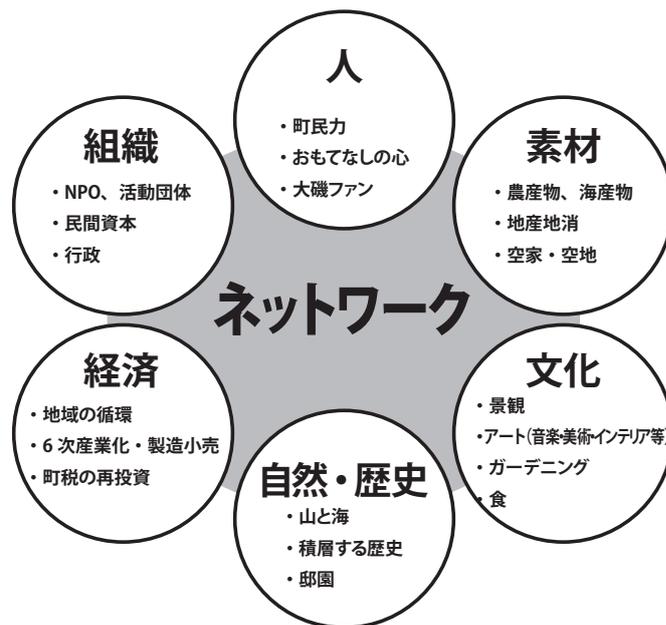


- ・観光とは、自由時間の中で日常生活圏を離れて行うさまざまな活動であるが、近年はこれまでの「どこ」に行くか、「何」を見るか或いはするかでは無く、地域の人々の生き生きとした暮らしの様に触れ、「楽しい気持ちになりたい」「ゆっくりした時間を過ごしたい」「癒されたい」という志向（ニューツーリズム）になってきている。
- ・これは、近年大磯町に若い世代が移住し、さまざまな創造的活動を始めているのと同じ志向性を持っている。つまり、大磯町には心身をリフレッシュして創造力をかき立てる環境価値が地域特性として存在していることを示している。
- ・「景観や産物の形態デザインだけに留まらず、人々の自然の見方・触れ合い方、人々の営み、モノづくりの創造力に現れてくる力強い地域個性の凝集・表出」を地域活力と呼ぶならば、地域活力に触れて心身をリフレッシュすることが、観光活動であり、大磯ならではの地域活力を地域ぐるみで育てることが観光まちづくりとなる。
- ・大磯の自然と歴史文化、町民の暮らしに根ざした活力と魅力ある諸活動の持続こそ、最大の観光資源である。
- ・地域社会が一体となって地域資産を活かすことによって、交流と創造を楽しみ、地域の新しい価値を発信し、次世代地域ビジネスを生み出すまちづくりが観光まちづくりである。
- ・また世界の観光客が大磯での観光を楽しみたいと考えたとすると、その最大の動機は、大磯でしか得られない感動、大磯でしか出会えない人、大磯で唯一の何かを求めるということである。やはりインバウンド観光の推進においても、大磯の地場の力を活かし、地域に根差した人の活動を醸成させるという、地域ぐるみの観光まちづくりが欠かせない取り組みであり、それが大磯らしい観光の基盤をつくっていく。

2 - 3. 本業務における提案の基本方針

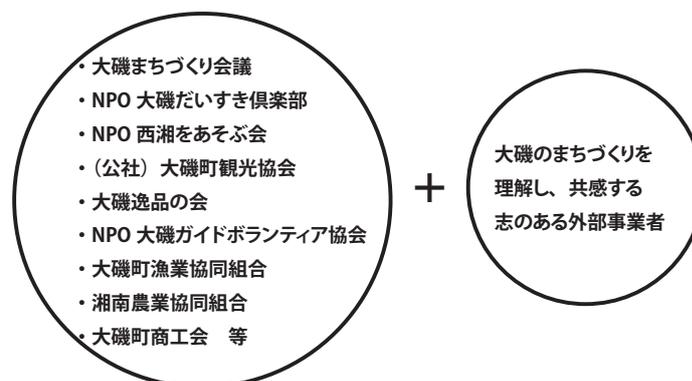
(1) ネットワークで地域の力を総合化する

- ・町内や地域の小さいが魅力的な取り組みをネットワークして持続性のある地域活力に育てる。
- ・「大磯オープンガーデン」「大磯うつわの日」「大磯市」「大磯芸術祭り」「ISO市」などネットワーク型の魅力発信イベントが既に行われている。
- ・これらは非日常性を演出するためのイベントではなく、住民の日常的な環境形成活動、町内のクリエイター達の創造活動、製販一体型個店の営業活動をネットワークし、時代や地域への認識を深めるクリエイティブな社交の場として住民に刺激を与え、大磯の魅力を発信するものである。
- ・大磯の暮らしを楽しみ、地域の産物や風景資源を見直し、新しい表現を生み出す、クリエイティブな人々のネットワークを形成する。



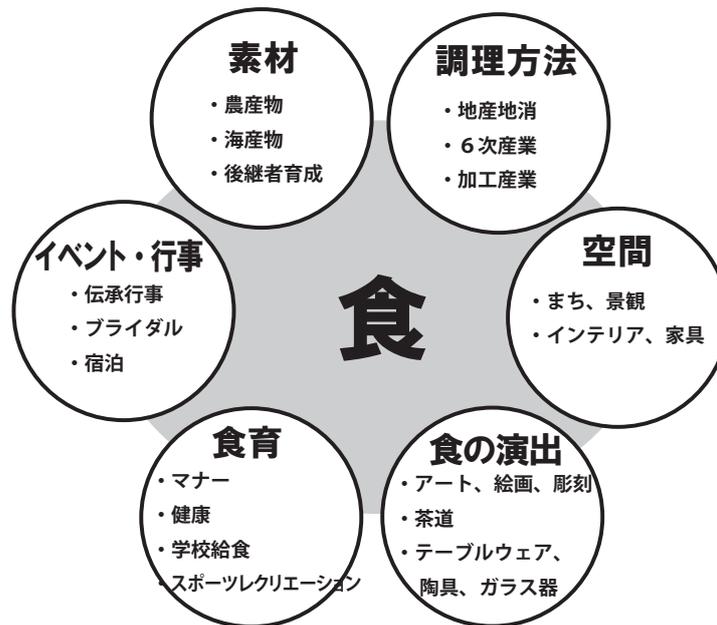
(2) 内発性を最大限活かす仕組みの構築を目指す

- ・安易に他力本願で外部資本の経済力に頼ること無く、地域の内発的な発想に基づく事業を立ち上げることが大切である。
- ・内発性を基盤に、必要に応じて大磯のまちづくりを理解し共感する志のある町外事業者との連携も行う。
- ・「大磯まちづくり会議」「大磯だいすき倶楽部」「NPO 西湘をあそぶ会」「大磯地域振興株式会社」など、内発的なまちづくり団体や組織も活動している。このような団体組織と協働する「(仮称)大磯景観・観光資源整備機構」の組織化を図る。



(3) 「食」を総合化のメインテーマにする

- ・「食」は大磯の自然、歴史文化、産業、暮らし、アートを総合化する持続力あるテーマである。
- ・既に「歴史と味の散歩路」の取り組みを継続しており、下地は出来ている。
- ・大磯の海・山の幸を生かした新たな食文化の育成による持続的なおもてなし観光（「食」によるコミュニケーション）の推進を図る。
- ・「日本食の文化」をテーマとして設定した。世界的な日本食ブームの中、実は日本国内においても「日本食とは？」に関して歴史的に見ても定義されていない。
- ・日本における「食事と健康」はカロリー計算や塩分や脂質のコントロール等に偏っており、今後ますます高齢化する社会において、「生きている証」としての食事の質をもう一度ゆっくりと見直す必要がある。
- ・食事をする時、そこに音楽が有り、会話が流れ、海の音が聞こえ、風の音が聞こえて「素晴らしい時間」を味わう必要がある。

**(4) 地産地消の経済サイクルをつくる。**

- ・大磯町に来街しないと味わえない、入手できないサービスや製品を開発する。
- ・町内で収穫される農産物・海産物を町内で加工し、町内の飲食店、宿泊施設等で来街者に提供する、町内6次産業化を進める。
- ・商品開発、デザイン、施設デザイン、広報編集デザイン等のコミュニケーションデザインを町内のクリエイター、アーティスト、カメラマン、コピーライター等の参画を得て行う。

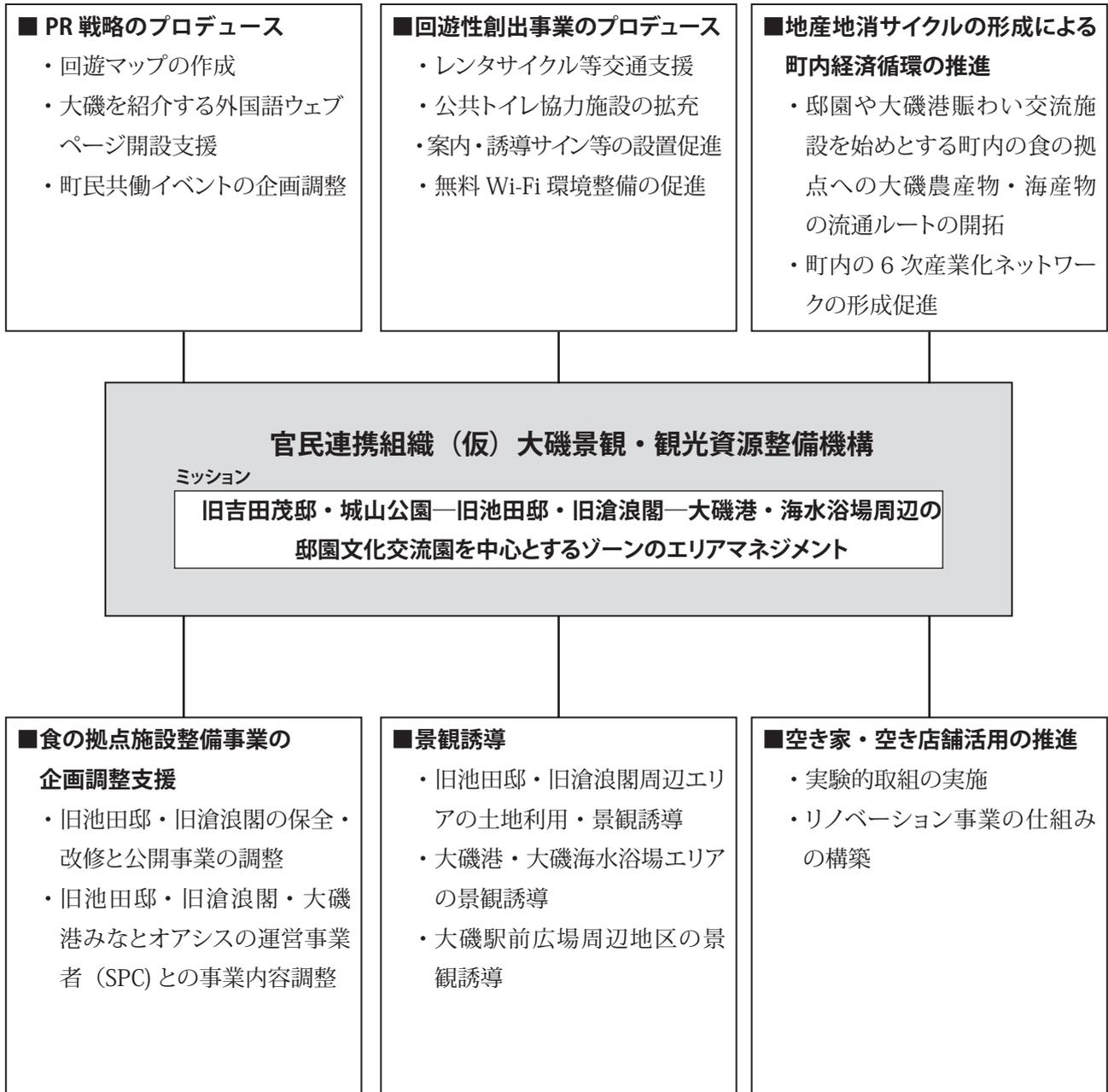
(5) 大磯らしい品格を大事にする

- ・大磯の風土・歴史を基盤として、おもてなしの心（ホスピタリティ）を持ってお客様をお迎えする姿勢が大切であるが、さらに大磯らしい品格を大事にする意識をもって取り組む必要がある。
- ・「らしさ」は他の地域では取り組まれていないことに挑戦していくことで生まれていくが、そこに大磯の品格を備えた新しい取り組みをしていくことが、大磯にしかない価値をつくり、ブランド力へと繋がっていく。
- ・集客さえあればよいということではなく、常に大磯らしい品格づくりを意識することが、それぞれの人の取り組みの信念につながり、大磯のファンを増やしていく好循環を生み出す。

(6) ネットワークのハブとなる場や施設を拠点として官民連携で整備する

- ・大磯駅前地区、大磯港、旧滄浪閣周辺地区、大磯城山公園の4カ所を拠点として官民連携で整備する。
- ・それぞれの拠点の立地や地域資源に応じて、食文化機能、リゾート機能、町の魅力や施設・観光情報等の案内機能、交通支援機能等を整備する。

2 - 4. 全体計画



3章 ネットワーク増進計画

3 - 1. 地域資源のネットワーク形成（回遊性の向上）

3-1-1. 交通補助手段の整備

- ・単なる移動の為だけではなく、町の魅力を伝えたり、地域経済の強化に資する新たな交通手段が必要である。
- ・近年は、コミュニティサイクルやコミュニティバス、パーソナルモビリティなどが活躍の機会を増やしているが、これらは単に移動だけでなく、移動に伴う人々の活動ニーズに合わせ、きめ細やかなサービスを提供できることを大きなメリットとして導入されている。新たな拠点づくりに伴う大磯町の環境変化に合わせ、多様なサービスが提供できる新たな交通手段を整えていくことを、今後、継続的に検討していくべきである。

(1) レンタサイクル「いそべえバイク」（コミュニティサイクル）

- ・レンタサイクルの貸出・返却拠点を複数設置（下図参照）し、拠点間の乗降り自由なレンタサイクルシステムを構築、回遊性を向上させる。太平洋岸自転車道も走行ルートとして活かすほか、乗降り自由のレンタサイクルのメリットを活かしていくためには、湘南地域一帯で連携することなども考えられる。

(2) ミニデマンドバス・休日観光バス

- ・バス運行会社に依頼し、平日は東海大病院や、町内公共施設などを巡回するデマンド型（手を挙げればどこでも乗降りできる）ミニバスを運行。休日は駅、大磯港、旧滄浪閣、更に城山公園や高麗神社とを結ぶデマンド型観光回遊ミニバスを運行し、観光案内も含めたサービスを提供することなどが考えられる。
- ・町が行なっている生活交通確保対策事業補助路線バスのバス車両など、休日に運行していない車両を活用することも考えられる。

例) BayBike（コミュニティサイクル）（横浜）



従来のレンタサイクルとは異なり、街中に複数設置された拠点で貸出・返却ができるシステム。まちの回遊性向上、環境負荷低減等の効果が期待される。横浜では横浜市とNTTドコモの協働により、2011年から社会実験を開始、2014年春からの本格的な運用を目指している。

移動の利便性向上とともに、貸出・返却拠点周辺の店舗・観光スポットを結ぶサイクリングコースの提案や、イベントと連動することで、観光地としての魅力向上に寄与している。

例) コミュニティバス



横浜市では、生活に密着した交通手段として小型バス等の導入を支援する「地域交通サポート事業」を行っており、平成26年1月時点で、本格運行中の5地区を含む20地区で取組みが進められている。調査検討の支援や、事業者との調整の支援、活動費の助成、実証実験運行時の事業者に対する運行経費の赤字額補填等を行う。路線バス会社、タクシー会社や観光バスの事業者等が関わり、地域発意の主体的な取組みを進めている。

コミュニティサイクルステーション配置計画案



3-1-2. いそべトイレ

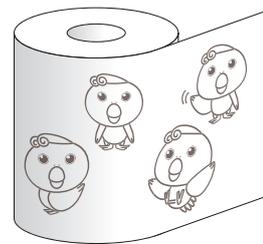
- ・観光客の回遊性を向上させるには、公衆トイレを回遊ルート上の要所に配置することが大切である。
- ・現在、大磯町では大磯町新たな観光の核づくりの推進に向け、民間事業者の協力により、大磯町への来訪者が安心して公共トイレを利用できる環境づくりの為、大磯町公共トイレ協力店を募集している。
- ・公共トイレ協力店の取組みをさらに進め、寺社、公共施設、コンビニやスーパーマーケット、などの公衆トイレ、飲食店や商店などの客用トイレを観光客が使えるように、トイレを登録していく。
- ・登録したトイレには入口にステッカーを設置することで利用可能なトイレであることを示すことに加え、施設管理者に代わって、町がトイレットペーパーの一部を支給する（いそべペーパー）など協力体制を構築していく。

公共トイレ協力店の分布



公共トイレ協力店。2013年12月現在、下記の6店舗が協力店となっている。

- ・ヤオマサ大磯店
- ・スリーエフ大磯国府店
- ・セブンイレブン大磯国府本郷店
- ・スリーエフ大磯駅前店
- ・ローソン西湘大磯店
- ・クリエイトSD 大磯国府新宿店



いそべペーパーイメージ
(いそべトイレの取組み独自のトイレットペーパーを作成し、協力店に支給することで、トイレ管理者の負担軽減と、取組みのPR効果向上を図る)

● 公共トイレ協力店

※いそべトイレとして、認知度や発信力の強化を行いつつ、内陸部の寺社やその他店舗へと協力施設の拡大を目指す。

例) 神戸市市民トイレ制度



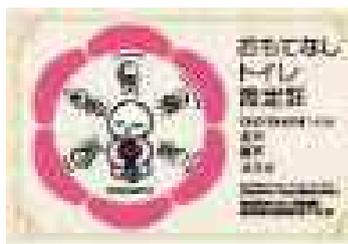
公衆トイレを補完する制度。管理者の善意で、公共施設や民間施設内の既存のトイレを市民トイレとして開放してもらい、一般市民が広く利用できるようにする。(平成24年4月現在の設置数 130)

例) 鎌倉市観光トイレ



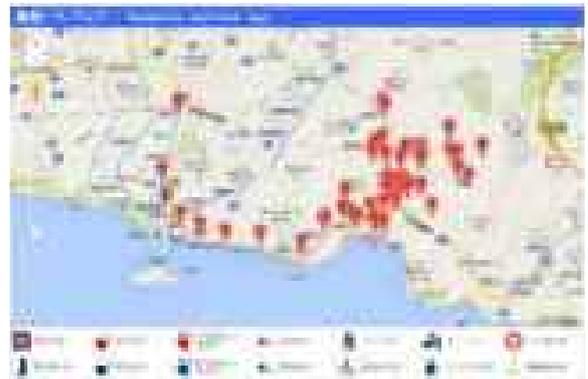
鎌倉では誰でも快適に過ごせる観光地づくりとして、公衆トイレの整備・清掃に力を入れている。寺社と市が協力して境内のトイレを公衆トイレとして整備するなどの取組みを推進している。

例) 高知県おもてなしトイレ



観光客の満足度の向上につなげるため、県民による観光客への「おもてなし」の気運を高める取り組みを行っている。観光客が利用するトイレにおいて、「おもてなし」に取り組んでいるトイレを公募により募集し、認定する。県内各地に9月30日現在で549箇所を「おもてなしトイレ」として認定。

例) 鎌倉トイレマップ



ウェブ上にトイレ情報がまとめられている。

例)ハマハグ



ハマハグカード

- ・子育て中（小学生以下の子どもがいる家庭）、妊娠中の人、ハマハグに協賛している店・施設で登録証を見せると、ちょっとした心配りから、安心・便利な設備・備品の提供、お得な割引・優待まで、子育てを応援するさまざまなサービスを受けられる仕組み。
- ・横浜市内に在住・在勤・在学でなくても利用できる。

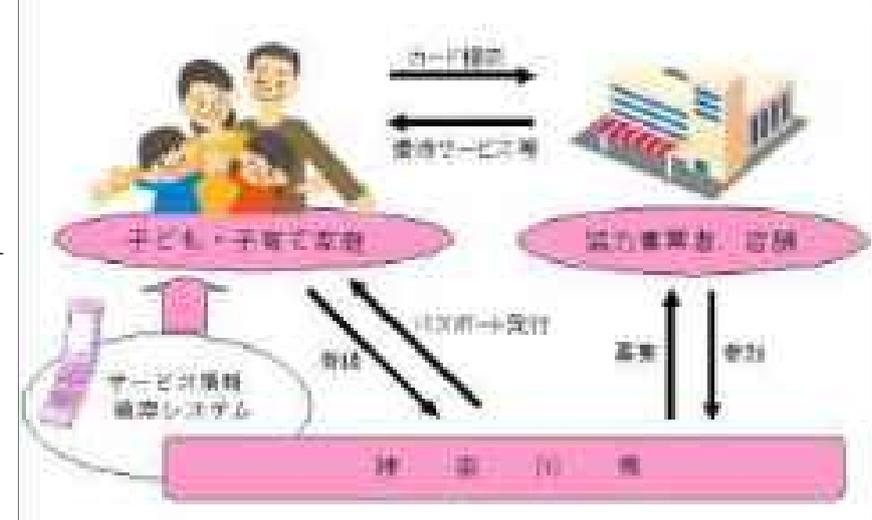


例) かながわ子育て応援パスポート (神奈川県)



店頭ステッカー

- ・妊娠中の方や子どものいる家庭からの登録を受け、携帯電話やパソコン等を通じて県が発行した登録証（名称「かながわ子育て応援パスポート」）を、協力事業者・店舗に提示することにより、割引や景品の提供など各事業者が設定する優待サービス等を受けることができる。



例) わが町 かながわ とっておき (横浜市神奈川区)

- ・横浜市神奈川区では「神奈川区らしい」「神奈川区ならではの」の魅力を次世代に残し、守り、伝えていくために、自然・文化・歴史・暮らし・産業などの魅力資源を、区民による応募・人気投票等により、「わが町 かながわ とっておき」として認定している。認定された資源は区の魅力のPRや観光、日常生活でのまち歩きに等の情報発信に活用される。
- ・また店や施設などが「とっておきサポーター」として区に登録、トイレの提供や道案内、割引などのサポートをする。まちのホスピタリティ向上と情報発信、地域づくりを一体的に進めている事例である。

